

NPO法人soar
活動報告書

soar ANNUAL REPORT 2017

2017年1月23日～2017年10月31日



「誰もが自分の可能性を活かして生きる未来をつくりたい」

そんな想いを抱き、2015年12月22日、私と副代表のモリジュンヤの2人で
ウェブメディア「soar」をオープンしました。

きっかけは、私の身内が統合失調症になってしまったこと。
いいサポート情報が得られず悩んだ経験から、
「困難に直面した人が、ちゃんとサポートにたどり着くことができるように」
とつくったメディアです。

soarはリリース直後から多くの反響をいただき、
SNSではいつもたくさんの方が感想とともに記事をシェアしてくださっています。
当事者のみなさんからの「とても励まされた」という声は、
私たちにとって何よりも嬉しいものです。

インターネットを通して、会ったこともないけれど、
今悩んでいる誰かを助けたい。
当初から思い描いていたことが、今少しずつ、
実現してきているような気がします。

「soarは文化をつくっているね」

そう言われたことがあります。
けっして情報を届けることだけが役目ではなく、
新たな価値観を広めることで、
社会の空気感をよりよいものにしていくことも、
soarのできることなのだと感じています。

より活動を加速させるため、2017年1月23日にNPO法人化し、
soarは新たなスタートを切りました。

寄付会員みなさん、読者のみなさん、
いつもsoarを支えていただき、本当にありがとうございます。

これからもみなさんとは、同じ未来を目指す仲間として、
長い道のりを一緒に歩んでいけると嬉しいです。

代表理事 工藤瑞穂



Our vision

誰もが自分の可能性を活かして生きる未来をつくる

私たちが目指すのは、
障害や病気、性的・民族的少数性、
経済的・機会的な格差などによって、
人が自分の持っている可能性にふたをされることない社会。

生まれ育った環境や自身が抱える困難によらず、
誰もが自分の可能性を活かして生きる未来をつくれます。

Our Mission

人の”可能性”に光を当てる

私たちは様々な困難の中にあっても
輝きを失わない”希望”に光をあてることで、
人がよりよく生きていくための、
まだ知られていない”可能性”を世の中に示していきます。

これまで分断されてきた人同士をつなぐことで、
新しい価値を生み出し、
より多様性のある社会を実現します。

Our value

① 見つける

社会的マイノリティ当事者や支援者が直面する困難や、その困難を解消するための活動を発見します。

②編集する

その人の持つ”可能性”を引き出し、情報をより人の心に届きやすく、希望を感じることで
できるかたちに編集します。

③伝える

メディアやイベントなどを通じ、困難に直面した人々をサポートする活動を社会へ発信し、分断されていた当事者と支援者をつないでいきます。

メディア報告

soarでは2017年度（2016年1月23日～2017年10月31日）、96本の記事を公開し、28万4,223人の方々にsoarの記事を読んでもいただきました。

記事数 96本

読者数 28万4,223人

soarには日々、たくさんの応援や記事の感想も届いています。

働くことができず社会に居場所がない
と感じていたけど、
soarに出会って希望を感じました

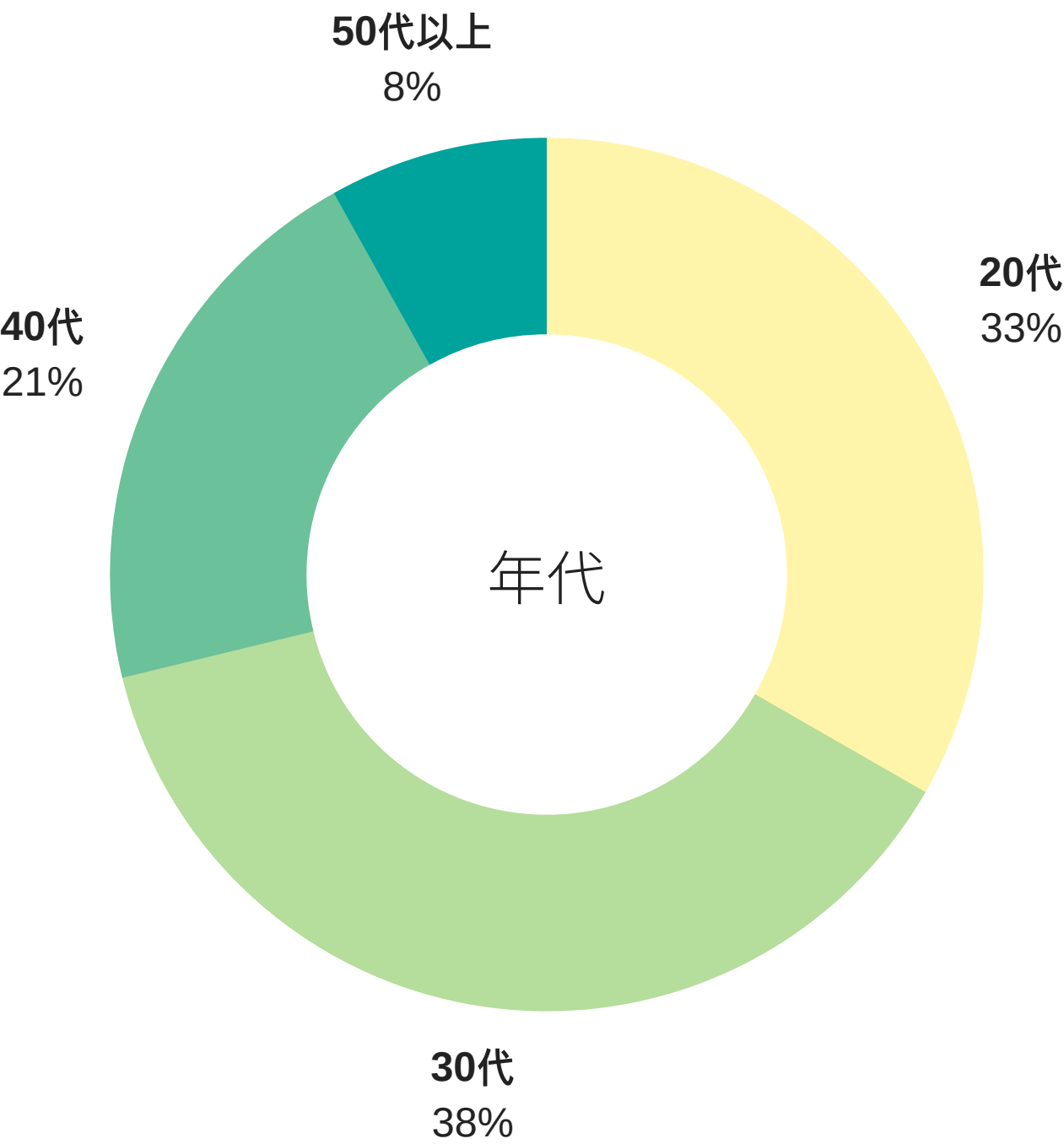
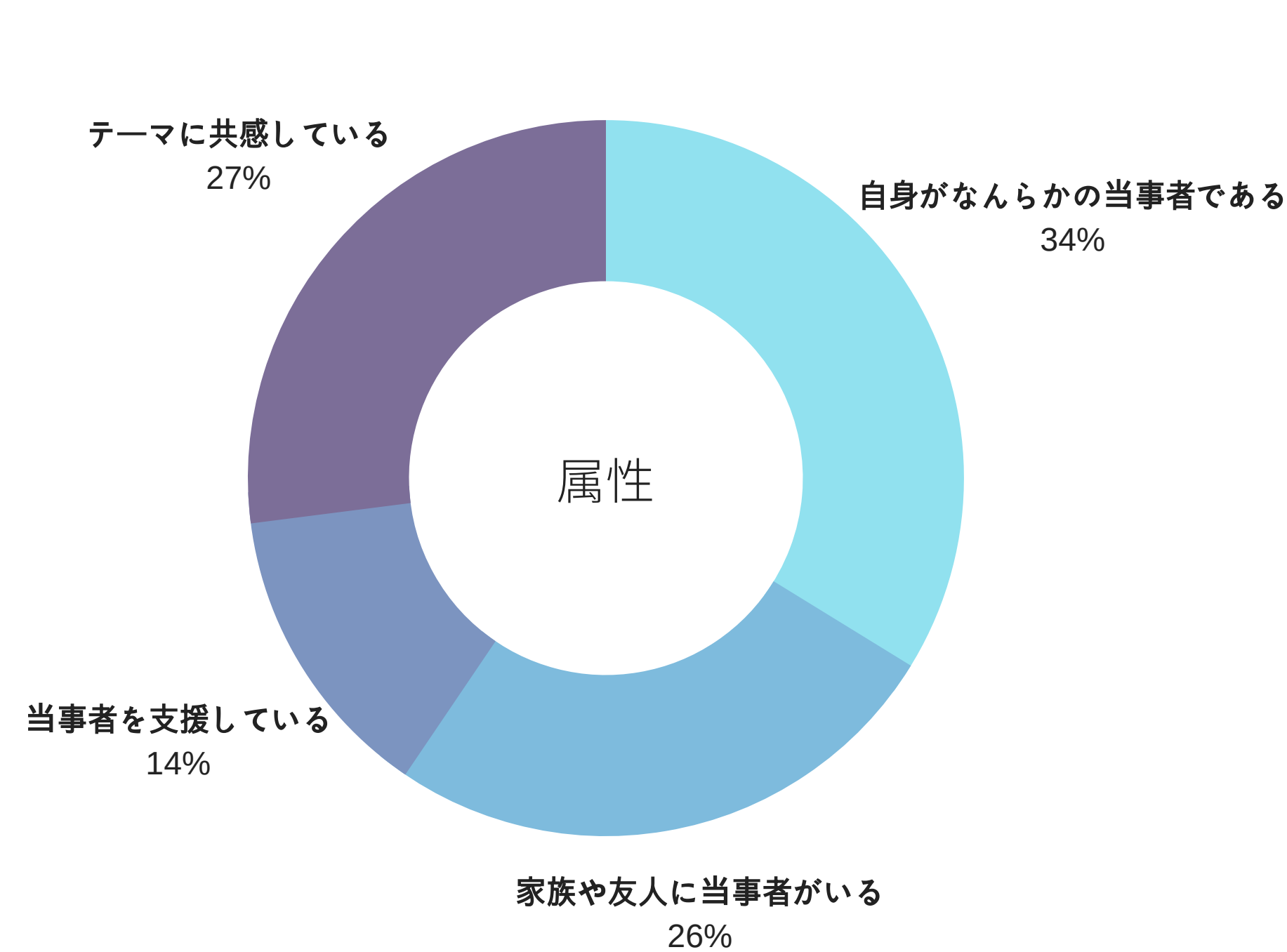
日本はもっと多様化していくべきだと思います。
病気や障害などを乗り越えたり、
それをサポートする方々を応援したいです

soarの記事は優しさに溢れているので好きです。
読んだことで読み手である自分が
傷つくこともなく、安心して読めます

soarは、なかなか光が当たりづらい部分に
焦点を当てていて、自分の知らなかったこ
とに気づかせてくれます

読者の属性

幅広い年代、そして幅広い立場の方が、インターネットを通してsoarを読んでもらっています。



全国の取材先

soarは関東を拠点に活動していますが、まだ全国的には知られていなくても、地方には素晴らしい取り組みがたくさんあります。今年度は福岡や京都、静岡、愛知、宮城など、全国各地に足を運び、取材を行いました。



静岡県にある、障害福祉サービス事業所「アルス・ノヴァ」を訪ねました。

シングルファーザーの方々が家事を学べる場を提供する木本努さんを訪ね、京都府へ。



兵庫県の須磨海岸で行われた、須磨ユニバーサルビーチプロジェクトでは、車椅子で海を楽しむたくさんの障害のある方とご家族の笑顔に出会いました。



アルビノ当事者でもあり、アルビノ当事者にご家族の交流の場をつくる「アルビノ・ドーナツの会」の代表の薮本舞さん取材しに、大阪へ足を運びました。

宮城県で活動を行う、認知症で悩む人のための「おれんじドア」代表の丹野智文さんにお話を伺いました。



福岡県で里親として2人の男の子を育てる田原正則さん。子どもたちとの3人の生活に密着！

記事テーマ

●soarで扱った記事のテーマ

視覚障害や聴覚障害といった障害や口唇口蓋裂、若年性認知症、過敏性腸症候群などの病気、ゲイ、レズビアンなどのセクシャルマイノリティについても取り上げました。

障害（身体、知的）	18記事
病気・難病	10記事
子ども・若者	8記事
福祉（施設、プロダクト）	...15記事
LGBT	5記事
高齢者	5記事
メンタルヘルス	4記事
貧困・ホームレス	2記事
家族	7記事

その他
ダイバーシティ、元受刑者、
ひとり親支援など…

●多くの方に読んでいただいた記事

指が3本で生まれた先天性四肢障害のあるお子さんがいる、浅原ゆきさんのコラムです。障害があっても、チャレンジすればきっといろんなことができるという“可能性”を、この記事を通して多くの人に感じていただきました。お子さんを想う浅原さんの愛情に、子育てを頑張る親御さんからたくさんの感想をいただいています。



記事例

「元受刑者」の社会復帰を支える居酒屋「新宿駆け込み餃子」は、様々な関係者に話を聞きに足を運ぶ、フィールドワークという手法を基礎にして作成した記事です。soarでは多角的な視点からそのケースについて語っていただくことで、より活動の魅力や現状を知ってもらえるよう心がけています。





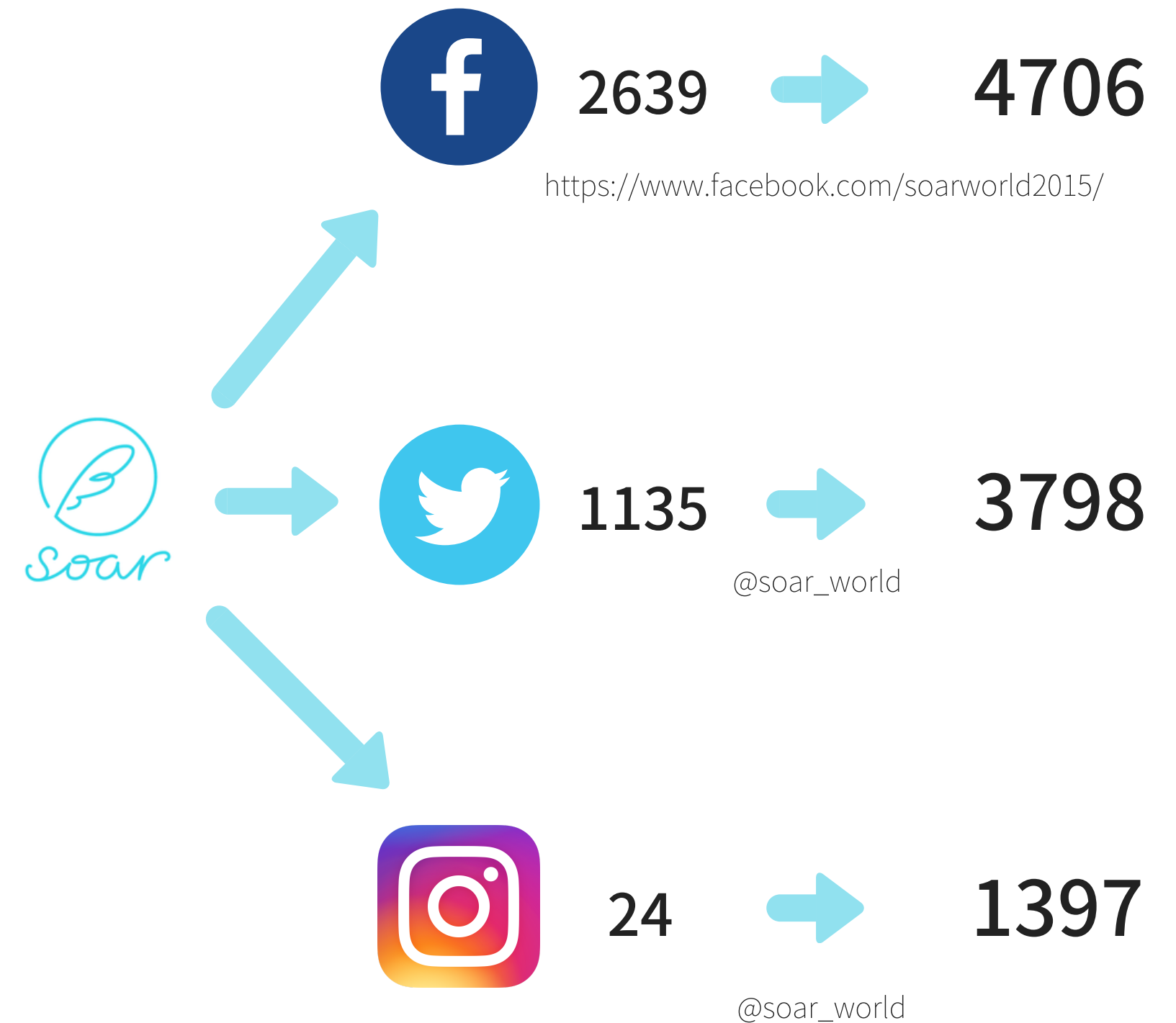
失読症を患ったお父さんのために
という思いから開発された
「OTON GLASS」では、最新テクノロジーを使って困難を解消し、暮らしをサポートする取り組みについてお話を伺いました。テクノロジーの力を使えば、障害が障害でなくなる未来が訪れるかもしれない。そんな希望の兆しを届けることができました。



SNSフォロワー推移

soarでは、Facebook、Twitter、InstagramなどのSNSも運用をしています。発信を通して、これまでの対人支援だけではリーチできなかった人たちとインターネットでつながり、勇気や励ましを届けています。

また、私たちだけでなく、soarの投稿をきっかけに、soarのフォロワーさん同士が互いにつながったり、コメントしあったりなど、読者の方々の交流が生まれる場にもなっています。



イベント報告

soarの記事に登場していただいた方のストーリーをより深く知っていただくイベントや、社会的養育やコミュニティのあり方、メディアや編集の価値、デザインの可能性など、幅広いテーマについて参加者とともに学び考えるイベントを開催しました。

2017年10月までに459名の方にイベントに参加いただき、多いときには、なんと100名ほどの方にご参加いただいた回もありました。

soarのイベントでは、参加者同士が交流する時間も大切にしており、同じ未来を目指す仲間と出会うことができます。参加者の方からも「色々な立場の人と仲良くなれるのが楽しい」といった声もいただきました。





メディアとテクノロジーは社会の”ウェルビーイング”の向上にどう貢献するか



アートやデザインの力で社会にメッセージを伝えること



その人の可能性を活かす仕事のつくり方



もう一つの”かぞく”のかたち



一人のゲストの人生ストーリーを
ゆっくり味わうお話会

活動説明会

soarでは毎月1回、活動説明会を開催しています。よりたくさんの方にsoarについて知っていただくため、無料で開催しています。

2017年3月に開催を始めた頃は7,8人ほどの参加者でしたが、回を重ねるごとに増え、一度に30名もの方が参加してくださるようになりました！今年度は、計102名の方々にご参加いただきました。soarの雰囲気を感じていただいたり、スタッフとじっくりと話をしたりすることで、活動に共感し、soarの仲間となってくれる方も増えています。



NPOや行政との協働事業について

soarのメディア運営で得た情報やネットワーク、soarの持つ編集力や情報発信力を活かして、NPOや行政、企業との協働を行いました。

NPOとの協働

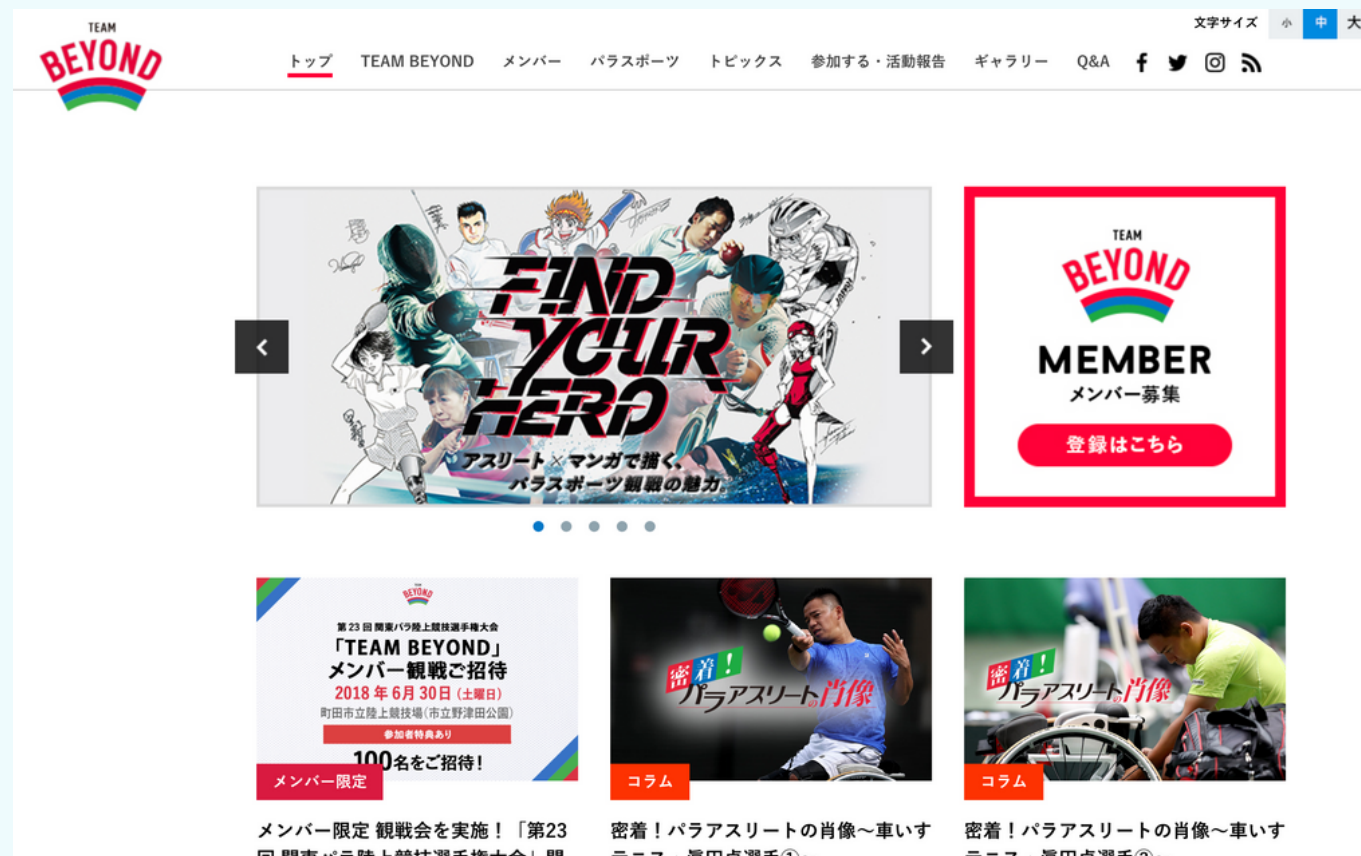


認定NPO法人SOS子どもの村JAPANと協働し、社会的養育やかぞくのあり方についての記事連載・イベント企画「子どもにとってより望ましい『“かぞく”のあり方』をめぐる旅」を行いました。

里親や特別養子縁組など、血の繋がりのない“かぞく”について関心が高まっていますが、なかなかその現状は見えてきません。

福岡を拠点に里親普及に務めてきた子どもの村JAPANとともに、社会的養育への認知を高め、子どもたちが安心して暮らせるかぞくのあり方について考えてもらう機会を生み出しました。

行政との協働



東京都が運営するパラスポーツ観戦促進プロジェクト【TEAM BEYOND】に、情報発信の監修で協力を行いました。

「パラスポーツで、未来を変えよう。」をスローガンに、2020年の東京パラリンピック開催に向けて、パラスポーツを盛り上げていこうというこのプロジェクト。

これまでsoarがメディア運営で培ってきた視点や編集力を活かし、よりパラスポーツの魅力を多くの人に届けていくために、ウェブサイトでの情報発信をサポートしています。

soarサポーター制度



2017年10月31日までに、soarは108人の寄付会員に支えていただいています。ご寄付は、読者に情報を丁寧に伝えるための記事作成費、見た人が心地よく感じられるサイトの開発費、また全国へ足を運ぶための取材交通費に使用させていただいています。

現在もsoarサポーターは増えており、みなさんの応援のおかげでsoarはどんどん成長を続けていくことができます。いつも、本当にありがとうございます。これからも、「人の持つ可能性を広げる瞬間」を届けることで、より多くの人に障害や病気を知ってもらい、社会を変える力になれるよう、活動をしていきたいと思っています。

会計報告

soarは非営利型のメディア運営を目指し、法人化と同時に寄付会員制度をスタートしましたが、2017年度はまだメディア運営にかかる全ての費用を寄付で対応できていません。

当面はイベント事業収益や外部との協働事業収益等で補填し、再来年度中に寄付金のみでメディア運営ができる体制を整えていく予定です。

		(単位：円)	
科目		金額	
I	経常収益		
1	受取会費		
	正会員受取会費	0	
	賛助会員受取会費	0	0
2	受取寄附金		
	受取寄附金		3,119,862
3	受取助成金等		
	受取民間助成金		1,550,000
4	事業収益		
	調査・メディア運営事業収益	1,561,244	
	イベント事業収益	1,693,452	3,254,696
5	その他収益		
	受取利息		0
	経常収益計		7,924,558
II	経常費用		
1	事業費		
	(1)人件費		
	人件費計	0	
	(2)その他経費		
	会議費	336,032	
	旅費交通費	505,484	
	外注費	2,590,551	
	通信運搬費	7,001	
	消耗品費	300	
	賃借料	74,180	
	支払手数料	354,070	
	その他経費計	3,867,618	
	事業費計		3,867,618
2	管理費		
	(1)人件費		
	人件費計	0	
	(2)その他経費		
	会議費	6,000	
	旅費交通費	41,600	
	消耗品費	10,126	
	賃借料	76,200	
	租税公課	1,500	
	支払手数料	101,769	
	広告宣伝費	45,000	
	支払報酬料	113,400	
	雑費	429	
	その他経費計	396,024	
	管理費計		396,024
	経常費用計		4,263,642
	当期経常増減額		3,660,916
III	経常外収益		
		0	
	経常外収益計		0
IV	経常外費用		
		0	
	経常外費用計		0
	税引前当期正味財産増減額		3,660,916
	法人税、住民税及び事業税		0
	当期正味財産増減額		3,660,916
	前期繰越正味財産額		0
	次期繰越正味財産額		3,660,916

2016年4-5月に実施したクラウドファンディングでの調達資金を含む

まだ社員がおらず、スタッフは業務委託での勤務となっているため

地方取材にかかる移動費

メディア運営に係る執筆・編集や撮影費、サイト開発費、事務作業費など

組織図

2017年1～12月の期間に在籍していたスタッフを記載しています。
このほか、多くのライターやカメラマン、
ボランティアスタッフのみなさんが活躍してくれています。

理事会

- 代表理事 工藤瑞穂
- 理事 モリジュンヤ、鈴木悠平、
碓和生、櫻本真理
- 監事 小澤いぶき
- アドバイザー 加藤徹生

経営ボード

- 工藤瑞穂
- モリジュンヤ
- 鈴木悠平
- 碓和生
- 樋口賢輔

事務局

- 樋口賢輔、野田菜々、栗田智美、山根優花、
百合本麻莉子、須藤亜紗実

編集部

- 工藤瑞穂、鈴木悠平、原田恵、松本綾香、野田菜々、
馬場加奈子、井上いつか、糸賀貴優、神島つばさ、長島美菜

開発・マーケティング部

- 碓和生、天川祐太郎、城後建人

Staff Introduction

Question

- ①担当している仕事
- ②soarに対してどんな価値があると感じているか
- ③soarに関わる理由について



代表理事、ウェブメディア
「soar」編集長

工藤瑞穂

- ①soarの法人としての経営全般を担いつつ、編集長としてメディア運営を統括
- ②インターネットで記事を通して、会ったこともない人同士がつながりあい、励ましあうことができるのが素敵だと思う。私もsoarのおかげで人生の出会いが豊かになりました。
- ③soarは私の大好きな「人の可能性が広がる瞬間」を集めたメディアです。自分が何より一番ワクワクできるものを仕事にできているのが、とても幸せです！



理事、株式会社インクワイア代表取締役、
株式会社IDENTITY 共同代表取締役

モリジュンヤ

- ①ウェブメディア「soar」の運営体制、経営全般・事業開発のアドバイス
- ②個別に走っていた小さなムーブメントたちを編み上げながら、一つの大きなうねりにしていくことができると考えています。長期的には「社会の分断」を乗り越えていく力があると思います。
- ③人が自分と向き合うこと、他者と対話することができれば、社会全体がポジティブに変質していくと信じています。soarは、そのインフラになると思っているので。



理事、「LITALICO発達ナビ」・
「LITALICO仕事ナビ」編集長

鈴木悠平

- ①ウェブメディア「soar」を成長させるためのコンテンツ制作の仕組みづくり、編集部の人材開発、その他経営全般のアドバイス
- ②どこか遠くの「マイノリティ問題」ではなく、「わたしとあなた」の関係性から物語が紡がれていくこと。そこから一人ひとりがつながっていけると信じられること。
- ③同じ時間を過ごしていて心地よいなと思える、自分の持てる力を差し出したいと思える、そんなチームメンバーやインタビューイの人たちの存在。

Question

- ①担当している仕事
- ②soarに対してどんな価値があると感じているか
- ③soarに関わる理由について



理事、
株式会社IDENTITY 共同代表取締役

碓 和生

- ①ウェブメディア「soar」を成長させるためのWebマーケティングの管掌、経営全般のアドバイス
- ②誰かの物語にフォーカスすることで、同じような立場にある人やそれを応援したいと思う人たちを繋げること。色々な人の生き方があるんだなあと、自分の知らない世界に触れられることも好きです。
- ③どれだけ価値のあることをやっても、世の中に届けられない活動がたくさんあります。インターネットの力で、1人でも多くの人に情報を届けるためにチャレンジできること、それを目指せるチームで仕事をできることが楽しいです。



編集部・ライター

松本綾香

- ①記事の企画から公開までの業務
- ②病気や障害、LGBT、高齢者などあらゆる属性の人たちを取り上げることで、読者や支援者たちにも横のつながりができること。同じ未来を目指しているのだと可視化されること。
- ③取材先や読者の方々との出会いに私自身励まされ刺激を受けています。たくさんの人とともに本当に社会を変えていけると、心から信じて仕事ができています。



事務局・編集部

野田菜々

- ①広報や採用、ニュースレターの配信、経理などを担当しています
- ②読んでいるだけで、周りの人にも自分にも優しくなれるところ。soarに出会うまでは自分にすごく厳しかったけど、「普通」にこだわらず、もっと自分らしさを大切にしていいたと思えたことで、心がふわっと軽くなりました。
- ③soarには自分が「嫌だな」と思う弱さも全部、温かく受け入れてもらえる場所です。そんな優しいsoarの空気が社会全体に広まるといいなと思っています！



来年度のsoar



2017年はsoarにとって、「はじまりの年」でした。

法人化し、寄付会員制度をスタートさせ、ようやくスタートラインに経ちました。

2018年はメディアの成長に尽力するほか、様々なチャレンジをしたいと考えています！

①メディアとして、より広範囲のテーマをカバーする

まだまだ、可視化されていないテーマは数多くあります。
soarは、より多くのテーマをカバーできるよう、
取材や執筆を行っていきます！
「困ったときにsoarを見れば情報があり、
解決策や回復の物語が見つかる」という
情報のインフラを目指します。
あらゆるテーマで、サポート情報、
当事者のストーリーを網羅していきます。



②soarの情報が届く人を増やす

メディアの読者を増やすために、記事の掲載はもちろん、
ソーシャルメディアの運営や
イベント開催、soarの認知度向上のための
広報活動などを通じて、読者を増やしていきます。
また、ウェブマーケティングに力を入れ、
困難に直面した人が情報検索をしたとき、
soarの情報を見つけ安心できるような状況をつくります。



③記事に限らない「体験」で価値観を伝える

これまではメディアで記事を届けることでsoarの価値観や描く社会像を伝えてきましたが、今後は違う手段も試みたい。

写真展やプロダクトづくりなど、

より「人の可能性が花ひらく世界」を体感できたり、
誰かの回復をサポートできるようなアプローチをします。



④他セクターとの協働を生み出す

soarに集まっている情報や人とのネットワークを活かし、
他分野で活躍するひとたちと

協働でインパクトを生み出していきたいと考えています。

そのために、行政、企業、教育機関など
様々なセクターの人たちとのコラボレーションを
実現します。

